

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

坂城町

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町里山景観整備事業
事業費 459,000円 (うち支援金: 459,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫による被害が増加している。

里山における広葉樹等の整理伐採が急務となっている。

(2) 本事業の目的

被害木処理を行い、被害蔓延を防ぎ、地域の森林づくりを推進する。

整理伐採が必要な広葉樹等を伐採し、森林の健全な保全管理を行い、伐採した木材は、きのこの原木材として有効活用する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 坂城町大字坂城、大字南条

(2) 対象者 地域住民

(3) 実施方法 地域要望に応じた松くい虫の被害木の処理を行う。

町内の森林で整理伐採が必要とされる広葉樹等を適宜間伐する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30 年度～令和 4 年度) ・被害木 100 本 ・広葉樹等 50 m³

②令和 2 年度実績 ・被害木 74 本 ・広葉樹等 9 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫の被害木の処理を行うことで、被害蔓延を防ぎ、森林の健全化を図り、土砂災害を防ぎ、水源の涵養機能の増加に効果的となる。

伐採した木材をきのこ原木材として活用することで、循環型の森林資源が可能となる。

(2) 継続性

地域住民が参加することによって、自らの里山を守る自覚が促され、事業の継続性と発展性が期待できる。

(3) 普及性

松林の健全化により、景観の保全と松茸の産出で事業の効果が県民に対し視覚的に確認できる。

地域の里山で伐採された原木を利用した、きのこを販売することで県民に対し効果をアピールする。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

令和2年度は、被害木20本の処理計画に対し、74本の実績となった。広葉樹等は10 m³の整理伐採計画に対し、9 m³の実績となり、地域住民の積極的な参加による景観整備が進んでいる。

(2) 課題

昨年同様、被害木の範囲が予想以上に拡大していることから、さらなる地域住民の参加が、望まれる。

(3) 今後の取組方向

☒事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

平成30年度から令和4年度の5年間で、広葉樹等の整理伐採計画については、50 m³の計画に対し、令和2年度は9 m³となり、計画どおりの達成が見込める。松くい虫被害木処理については100本の処理計画に対し、令和2年度は74本の実績となり、計画の100本に対しては、令和2年度に達成した。

しかし、松くい虫被害木は、相当数の被害が確認されており、現行の計画を見直しつつ、事業継続の必要がある。

☐事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

令和2年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

坂城町

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町森林景観整備事業
事業費 330,000円 (うち支援金: 312,000円)		

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

地域の公園となっている里山において、伐倒・くん蒸処理後の松くい虫被害木の枯損木が放置されており、ウォーキングする住民の安全への不安や景観の悪化を招いている。

(2) 本事業の目的

枯損木を搬出し、チップ化することで適正な処理を行うことで、里山の景観保全、遊歩道の安全確保を図る。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 坂城町大字網掛

(2) 対象者 坂城町

(3) 実施方法 現場から松くい虫被害木の伐倒駆除・くん蒸処理後の枯損木を搬出し、工場でチップ化する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

- ①全体計画(平成30年度～令和4年度) ・ $5 \text{ m}^3/\text{年} \times 5 \text{ 年} = 25 \text{ m}^3$
- ②令和2年度実績 ・ 6 m^3



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

森林の景観保全と林内の安全確保とともに、枯損木のチップ化で森林資源を循環的に活用することが可能となる。

(2) 継続性

地元の里山整備を地元業者に委託することで、関心も高まり、事業の継続性と発展性が期待できる。

(3) 普及性

枯損木を撤去することで、森林景観を保全する。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

令和2年度は、枯損木搬出を5 m³の計画に対し、6 m³の実績となり、計画どおりの達成が見込める。

(2) 課題

昨年同様、被害が予想以上に拡大していることから、町内の景観保全を図るため更なる被害防除対策の強化が必要。

(3) 今後の取組方向

☒事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

令和2年度は、計画を超える6 m³の処理を実施したが、今後も引き続き実施して行く。

☐事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐事業を継続しない

(継続しない理由を記載)